

「精神科医療の闇」を視聴して

事実の取材に基づいて番組にされた努力に心から敬意を表します。実感できる手がかりだと思えます。日々の暮らしをあのように過ごしておられる方々が、この同じ時空にあることに衝撃を受けるものです。お気の毒でたまりません。人の尊厳や人としての在り様についてももう少し何とかならないものかと思えます。

また、そこで働く医療従事者のそこで働いている理由は何かと、辛く思えます。生きがいややりがいのもとになっているようには思えないからです。そこにも言い知れぬ闇の事情があるのでしょうか。医療福祉の場で受療される方の安寧や回復を願う共通の思いであってもその方法のゆがみに気づかないのか、いつしか自分たちでこの大切な仕事を貶めていく道を極めていっていると見えました。働く人々にとっても、その状況に適応するか、加担するかの場合だとすれば、医療従事者本人にとっては大変不幸なことだと思えます。まるで、自己を卑下している者が弱い立場にある人を虐めて八つ当たりでもしているかのようにさえ見えますが、医療従事者もみじめですが、受け手の患者さんたちはどんなに辛いことか、命に直結する影響を被っていることがわかりました。

ただ、最後に転院が叶った女性のご様子から、体の清潔や整容、医療などの医療処置方法等見える部分だけですが、一定水準のケアができていように見えました。それだけに、医療の魂がぬけているような患者さんへの対応には一層心が痛みます。

しかし、一般には医療機関には様々な質保証のための仕組みがありますが、第1に当該医療機関や所属する団体の当事者としての自浄作用を発揮することへの期待が薄いとすれば、医療という公的な領域の問題として、今回のような実態を知ったうえでいくつかの医療機関が示すことで明らかになった不良部分への対処が急ぎ必要だと思えます。多くの方の長年にわたるご尽力にもかかわらず、今も怯えて痛みがあって疾患以外による多くの苦痛のある状況におかれている方がたくさんおられること、今、この現在において、私たちの住んでいる社会の怖さを思えます。

質保証の仕組みについて、当該機関の検証から見直しをせざる得ない時期ではないでしょうか。多領域多職種が適切に意見効果できる連携に合わせて、重要なことは当事者とのパートナーシップを尊重することだと思えます。ここまでかけて歩んだ人を尊重する時代を少しでも多くの方々と共有し医療が前向きに歩む道を、疾患で区切るのではなく人を大切にしようこれからをつくる一步を求める時期だと思えます。

医師についても、経営者ともなり得る影響をもつ立場の方もおられますので、資質の担保は重要課題ですが、人権蹂躪のような姿勢の垣間見える場合の再教育や免許停止など検討が必要だと思えます。ま

イタリアやオーストラリアの医療に学ぶこともできると思えます。

衝撃は大きいのですが、ここまでの番組の制作に改めて敬意を表しますとともに、多様な時間帯に何度も再放送があってほしいと思えます。